

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年8月12日～8月18日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年8月20日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジアの最低生活費(14日)

・アブハジア「統計局」が発表。2013年8月1日の時点で、労働可能な住民1人当たりの1カ月の最低生活費は4,814ルーブル。うち食費3,292ルーブル。昨年同期比5.5%増。

▼ア анкワブ「大統領」がソチでプーチン露大統領と会談(16日)

・アブハジアとロシアとの協力関係および7月から8月にかけての悪天候で被害を受けたガグラ地区およびオチャムチレ地区の復興について協議。

▼ロシアとアブハジアにまたがる自然保護区の設置(18日)

・メドヴェージェフ露首相がロシアとアブハジアにまたがる自然保護区の設置についての文書に署名。アブハジア側はリツァ湖周辺の地域が含まれる。

・20日、パンジキゼ外務大臣は同決定をグルジアの主権と領土一体性を侵害するものとして非難。

【南オセチア】

▼IPRM臨時会合(12日)

・10日にクヴェシ付近で起こった発砲事件を受けて、IPRM会合の参加者がエルグネティで臨時会合を開いた。
・「全ての当事者が緊張を高めかねない行動を阻止する責任を果たす」ことで合意。EUMMは会合の成果を歓迎する声明を発表。

▼ニキフォロフ露通信・マスコミュニケーション大臣が南オセチアを訪問(14日-16日)

・ティビロフ「大統領」と南オセチアの通信・郵便システムの整備などについて協議。「大統領」とともに南オセチアの印刷所を視察。

・南オセチア「通信・マスコミュニケーション委員会」は南オセチアでの携帯電話サービスの提供についてロシアの携帯電話キャリアと交渉中。

▼露省庁代表団が南オセチアを訪問(15日)

・露大統領府、財務省、経済開発省、法務省、教育・科学省、保健省などの代表者のグループが南オセチアを訪問。南オセチアの法律の整備を支援。

2. 外 政

▼NGO「Free Zone」が2011年5月の独立記念日の事件についての米國務省の報告書を公開(12

日)

・報告書は米國務省の依頼で米コンサルタント会社「Densus Group」がまとめたもの。2013年7月にグルジアの主任検察官に送付された。

・抗議デモの参加者側から挑発的な行為があったことを認め、一部の参加者が運転していた車の暴走により市民および警官に犠牲者・負傷者が出たと説明。「警官の大部分は命令に従い適切に行動した」。

▼OSCE議員会議のグロスルック議長代理とソアレス南コーカサス担当特別代表がグルジアを訪問(12日)

・ウスパシヴィリ国会議長らと会談。グルジアの内政の状況、対露関係、大統領選挙などについて意見を交換。

▼アラサニア国防大臣がドイツを訪問(13日)

・ダルチアシヴィリ国防次官とチャチバイア統合参謀本部副議長が同行。ホーエンフェルス米軍基地でISAFに参加するグルジア軍部隊の訓練を視察。

・キャンベル在欧州米陸軍司令官およびトライオン在欧州米海軍副司令官と、ISAFにおけるグルジアの貢献や今後の協力の見通しについて会談。

・ドイツで療養中のグルジア正教会総主教イリア2世と面会。

▼アハロノヴィチ・イスラエル公安大臣がグルジアを訪問(15日-18日)

・ガリバシヴィリ内務大臣と会談し、犯罪に対する戦いと治安分野での協力に係る両国政府の共同文書に署名。

・ツルキアニ法務大臣、スバリ矯正・法務支援大臣と会談。

▼ロシア・グルジア間の車両による貨物輸送

・グルジア経済・持続的発展省によれば、8月初めにモスクワで行なわれた同省と露交通省との協議で、露側が運転手のビザの取得手続きを近い将来に簡素化することを約束。

・2013年には現在まで、グルジアからロシアへの貨物輸送車両の入国について、約500件の許可が下りている。

・2006年以降停止されているロシアの諸都市とグルジアとの間の定期的なバスの運行の再開についても合意。

3. 内 政

▼中央選挙委員会委員長が辞任(12日)

・ハラティシヴィリ委員長は国会が2010年1月に5年の任期で任命。当面はキルタゼ委員が委員長代行を務める。

・規則によれば、新しい委員長は大統領が挙げる候補者3名のなかから、中央選挙委員会の委員が選出する。委員会決定できない場合には議会が選出する。

・大統領選挙の2カ月前の辞任に対して、与野党双方から批判の声が上がった。イヴァニシヴィリ首相は、「ハ」氏が前政権時の国会により選出されたことを踏まえ、「選挙に向けたUNMの工作は失敗するだろう」とコメント。

・15日、「ハ」氏は記者会見を開き、現在のグルジア社会が二極化しているとして、「社会の発展および国内の調和と平和」を目指す新しい政治勢力をつくる意図を表明。10月の大統領選挙に出馬する可能性についても言及。

▼アスラン・アバシゼ・元アジャラ自治共和国首班がグルジアへの帰国の意思を示唆(12日)

・アバシゼ元アジャラ自治共和国首班は2004年以降ロシアに滞在している。息子ギオルギが「クヴィリス・パリトラ」紙のインタビューで、「まず自分がグルジアに戻り、その後、父親も帰国するつもりだ」と発言。

・アバシゼ氏の弁護士は「グルジアに入学した際には直ちに逮捕されるだろう」とコメント。アバシゼ氏は権力濫用と公金流用により15年の禁錮刑が言い渡されている。

▼アブハジア紛争から21年(16日)

・アブハジア戦争は1992年8月に始まり、13カ月間にわたって続いた。トビリシで、紛争から21年が経ったことに因んだ式典が行われ、紛争で命を落とした兵士たちの慰霊碑に花輪が置かれた。

・ザカレイシヴィリ再統合問題担当国務大臣は「紛争は大きな過ちであった」「現在のグルジア政府はアブハズ人およびオセット人の利益を守る用意があり、真摯に平和的な共存関係を築こうとしている」との声明を発表。

▼サーカシヴィリ大統領が教育法改正案に拒否権を発動(16日)

・改正案は7月末に国会が承認。博士号保持者のみ准教授になれると限定することについて「グルジアの教育制度の現段階においては不必要」として反対。

▼トビリシ国立大学の新学長が決定(16日)

・評議会での投票により13人の立候補者のなかからヴラディメル(ラド)・パバヴァ氏を選出された。

・パバヴァ氏は経済学者。グルジア戦略・国際関係研究基金(GFSIS)上級フェロー。1994年から2000年まで経済大臣を務めた。2004年から2008年まで国会議員。もともと「統一国民運動」(UNM)のメンバーであったが、2007年11月に離党。

4. 経 済

▼ウグラヴァ・トビリシ市長が2013年トビリシ市予算の増額を市議会に要請(13日)

・予算を17万ラリ増額し、バスの購入、保育所の改修、

避難民の住居のガス施設の整備などに充てる計画。26日に市議会で採決される。

▼7月末の時点で対外債務は41億5900万ドル(13日)

・財務省の統計によれば、6月末の時点より3100万ドル増。このうち39億4200万ドルが政府の対外債務。グルジア国立銀行の対IMF債務は2億1651万ドル。

▼タジキスタン中央銀行の代表団がグルジア国立銀行を視察(8日-10日)

・グルジア国立銀行によれば、タジキスタン中央銀行を支援しているドイツ連邦銀行がグルジア国立銀行の改革の成功に学ぶよう助言。

・タジキスタン中央銀行総裁は、「グルジアは旧ソ連諸国、中央アジア諸国の注目を集めている」と述べた。

▼2012年の外国からの直接投資額(15日)

・国家統計局によれば、2012年の外国からグルジアへの直接投資額(確定値)は912百万ドル。前年比18.3%減。

・エネルギー部門179.4百万ドル、製造業167.9百万ドル、金融162.6百万ドルなど。

・国別では、多い順にドイツ138.8百万ドル(以下、単位同じ)、英国93.6、トルコ81.1、アゼルバイジャン59、ルクセンブルグ42、サウジアラビア39.5、キプロス38.7、中国36.1、オランダ35.4。

▼1月~7月の外国からの送金(18日)

・グルジア国立銀行によれば、2013年1月から7月までの外国からグルジアへの送金は805.4百万ドル。前年同期比8.4%増。

・国別ではロシアが最大で53.9%(434.8百万ドル)。次いでギリシア、イタリア、米国、ウクライナ、トルコなど。

4. その他

▼ゴリ付近でM3.6の地震(14日)

・14日9時48分、ゴリ南西8kmを震源とするマグニチュード3.6の地震が起こった。被害は確認されていない。

▼チアトゥラ付近の坑道の出水で2人の作業員が死亡(14日)

・「グルジア・マンガン」社の鉱山。同社の労働者は2012年10月~11月に危険な労働環境の改善を求めてストライキを行っていた。

・ナヌアシヴィリ人権保護官は政府に対し労働者の安全確保のための措置を勧告。